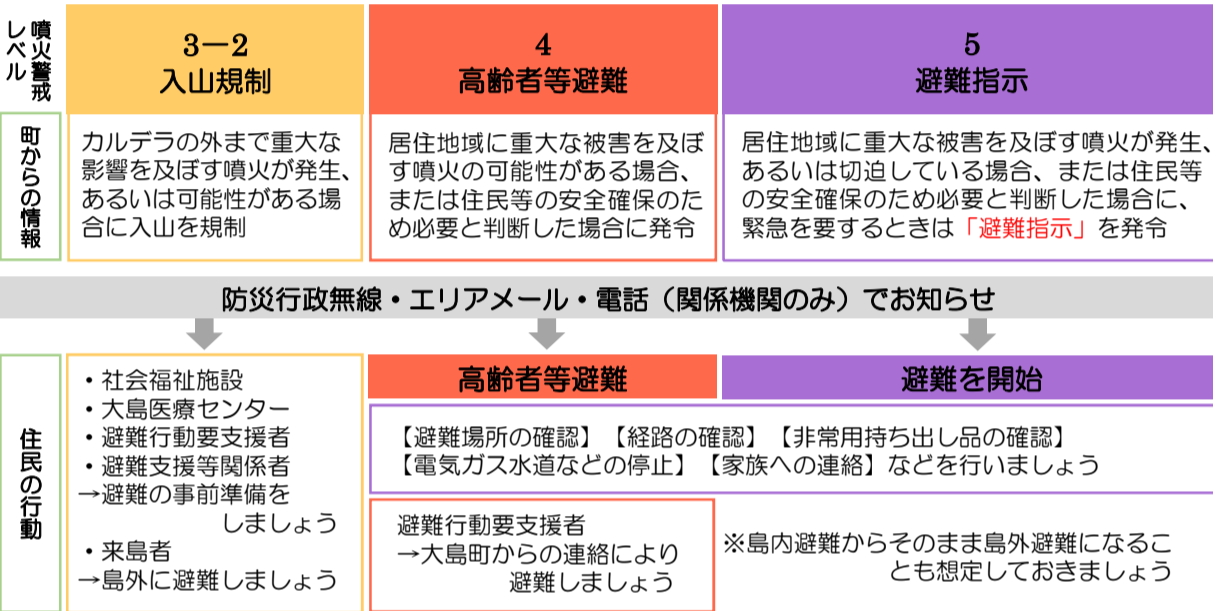


# 噴火したら起こることから身を守る

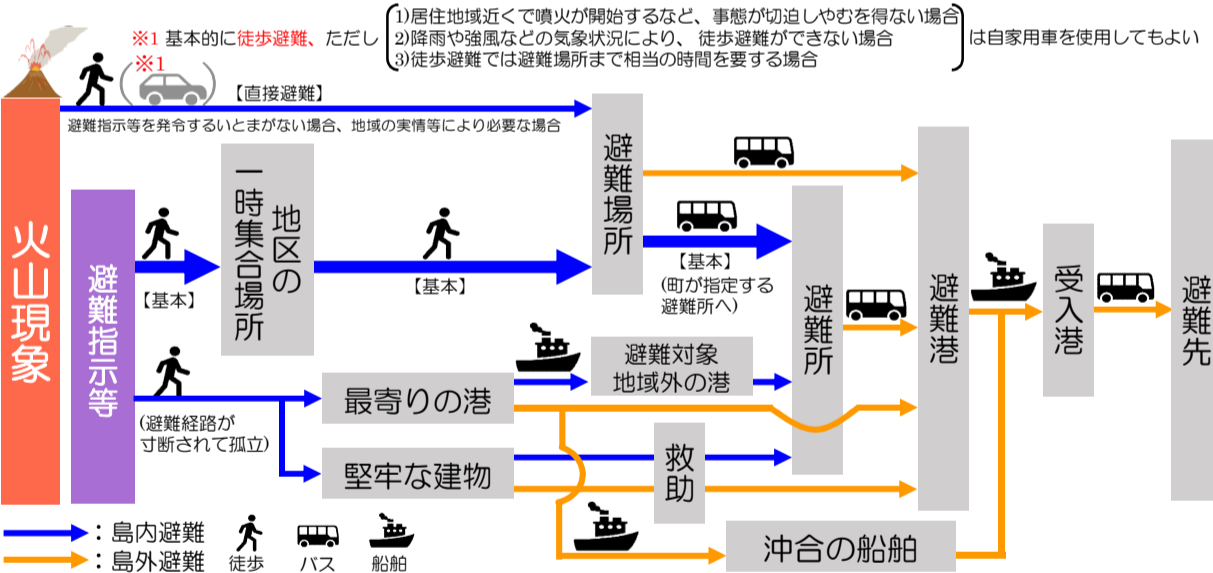
対応	現象	解説
避難する	火砕流※	火砕流は、噴火で放出された噴石と火山灰や火山ガスが混じりあって、火山の斜面をかける大変危険な現象です。火砕流の速さは時速100km以上、温度は数100℃に達することもあるため、巻き込まれたら、助かることはほとんどありません。
	噴石	噴火のときには、噴石や火口のまわりにある岩が飛ばされます。1mくらいの噴石が、1kmくらい飛ぶこともあります。にぎりこぶしくらいの噴石は、もっと遠くまで飛んでいきます。大きい噴石は、建物の屋根を突き抜けてしまいますので、大変危険です。
近寄らない	溶岩流※	泥流は、降りつもった火山灰が、雨などによって斜面を速いスピードで流れ下る現象で、樹木や建物を押し流すほどの大きな力を持っています。降りつもったばかりの火山灰は、5mmくらいの少しの雨でも泥流になることがあります。
	火山ガス※	噴火のときには、火口から溶岩があふれ、遠い所まで流れることがあります。溶岩の温度は1000℃をこえるので、樹木や木造住宅などは、燃えてしまいます。しかし、溶岩の流れる速さは、人が歩くよりも遅いので、流れる様子をよく見て逃げることができます。
マスク・ヘルメット・ゴーグルで防ぐ	火山灰※	火山活動で噴出される二酸化炭素、二酸化硫黄、硫化水素等は火山ガスと呼ばれます。有毒な火山ガスは低いところに溜まりやすいので、谷沿いや窪地に近づくのは大変危険です。濡らしたハンカチ等で鼻と口を覆うと有毒な火山ガスが体内に入るのを軽減できます。
		噴火のときには、火口から煙のように火山灰がふき出てきます。火山灰は、ガラスの小さな破片のようなものです。吸い込んだり目に入ったりすると、のどや目を傷つけます。また、農作物が枯れたり、自動車がスリップしたりします。

※(写真は気象庁ホームページより引用)

## 情報の流れと避難行動



## 避難の流れを確認しよう



## 地域の避難先を確認しておこう

地区住民	集合	避難場所 (一時集合場所) ※1	避難所 (第1目標)	避難所 (第2目標)	避難港 ※2	地区ごとの避難所 (第1目標・第2目標)
泉津		泉津公民館広場 さくら小学校グラウンド	元町地区		元町港 波浮港	泉津地域センター体育館 泉津公民館
岡田		岡田コミュニティセンター さくら小学校グラウンド				岡田コミュニティセンター さくら小学校体育館 第二中学校体育館 けんこうセンター
北の山		北の山地域センターグラウンド	泉津地区 岡田地区	差木地区 クダッチ地区 波浮港地区		北の山地域センター体育館 北の山公民館
元町		つばき小学校グラウンド 第一中学校グラウンド 大島高校グラウンド				つばき小学校体育館 第一中学校体育館 大島高校 開発総合センター
野増		野増地域センターグラウンド	泉津地区 岡田地区 北の山地区			野増地域センター体育館 野増公民館 野増地域防災コミュニティセンター 間伏文化会館
間伏		間伏文化会館広場				間伏文化会館 間伏地域防災コミュニティセンター
差木地		差木地地域センターグラウンド 第三中学校グラウンド 大島海洋国際高校グラウンド		元町地区		差木地地域センター体育館 差木地公民館
クダッチ		波浮地域センターグラウンド 波浮港老人福祉館広場				第三中学校体育館 つばき小学校多目的室 大島海洋国際高校 クダッチ老人福祉館
波浮港						波浮地域センター体育館 波浮港老人福祉館

※1 第1目標は岡田港か元町港を含む近接地区として設定  
第2目標は第1目標への避難が不可能または危険な場合の避難先として設定

※2 避難港は、気象・火山活動・道路・港湾の状況等から町長が選定する

## 大島で近年に起こった噴火

噴火の例	最近の噴火
大規模噴火 1777年~1792年(安永の大噴火) 山頂から噴火が始まり、スコリア(黒い軽石)が全島に降下しました。溶岩は、南西方向に流れて赤沢を下り、地層切断面の近くに達しました。北東方向へも溶岩が流れ、大島公園南部の海岸に達しました。その後は、長期間に渡って火山灰を放出しました。	1777年 1876年
中規模噴火 1986年噴火 噴火の4ヶ月前、12年ぶりに微動が観測され始めました。噴火の3日前には、山頂火口の新たな場所から噴気が上がっているのが発見されました。そして、11月15日に山頂火口から噴火が始まり、溶岩を噴水のように噴き上げました。11月19日には、溶岩がカルデラ内の北西部へ流れ出ました。11月21日、カルデラ内北部で割れ目噴火が始まり、溶岩を高さ1600m噴き上げました。さらに、外輪山北西山腹からも割れ目噴火が起こって、溶岩流が元町方向へ流れました。全島民約1万人が、1ヶ月程度、島外に避難しました。	1912年 1950年 1957年
小規模噴火 1987~1990年噴火 1987年11月16日に大きな爆発音と地震を伴う噴火が発生しました。その後も1990年10月にかけて山頂火口からの噴火が4回発生しました。これらの噴火では、溶岩の破片などが三原山周辺に飛散し、少量の火山灰が島の東側や西側などに降りました。また、噴火の前には、噴気活動が活発になったり、山頂付近で震源の浅い地震が増加したりすることがありました。	1986年 1987-90年

## 噴火警戒レベルと防災対応

噴火警戒レベル	火山活動の状況	防災対応
5 (避難指示)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある	危険な居住地域からの避難等が必要
4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)	警戒が必要な居住地域での避難準備、避難行動要支援者の避難等が必要
3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される(3-①警戒範囲: カルデラ内、3-②警戒範囲: カルデラ外に及ぶ)	登山禁止、入山規制等危険な地域への立入規制/避難行動要支援者の避難準備/住民は通常の生活
2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される	火口周辺への立入規制/住民は通常の生活
1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)	状況に応じて火口内への立入規制等

噴火警戒レベルとは・・・火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表する指標

## 避難に備えて

- ◆ 家の中や周りの備え
    - 家具を固定
    - 排水溝や雨どいの清掃、雨戸の点検
  - ◆ 備蓄品
    - 飲料水やごはん、ビスケットなどの非常食
    - 飲料水以外の生活用水
    - ティッシュペーパー・電池などの生活用品
  - ◆ 非常用持ち出し品
    - 貴重品・食料・飲料水
    - 着替え・常備薬
    - ヘルメット・懐中電灯など
- 日本赤十字社HP 非常時の持ち出し品、備蓄品チェックリスト
- NTT災害用伝言ダイヤル 171 にダイヤル 171
- ガイダンス → 録音の場合 1 → ガイダンス  
ガイダンスに従って伝言の録音または再生を行う  
再生の場合 2 → ガイダンス

## 三原山の様子をみてみよう

北西外輪

中央火口北

【気象庁】伊豆大島の活動状況

ライブカメラ画像で、現在の三原山の様子をご覧いただけます

## 異常現象を通報しよう

噴火、降灰、火映、地割れ、隆起、陥没、鳴動、火山ガス

異常現象を発見した場合、直ちに通報先に連絡を!

大島町役場 2-0035  
大島警察署 2-0110  
大島町消防本部 2-0119